

三重大学はアントレプレナーシップ教育を始めます

起業家精神とアントレプレナーの養成による三重モデル地域創生

- 三重大学は、令和5年度に「地域創造教育センター」を設置し、アントレプレナーシップ教育プログラムを開発してきた
- アントレプレナーシップ教育とは、自ら社会課題を見つけ、解決に向かってチャレンジし、解決策を探求できる力を身に付ける教育である
- アントレプレナーシップ教育をてこに、大学発ベンチャー設立の促進と支援体制の整備を進めるとともに、高大接続への展開と若者の地域定着促進による地域創生に活用する

【概要】

三重大学は、「地域共創大学」として、地域社会と本学がともに発展する未来づくりを目指す「三重モデル地域創生」を推進してきた。この一環として、アントレプレナーシップ教育を本学および地域に展開する目的で「地域創造教育センター」を令和5年に設置した。これまで本学で展開してきた地域の企業経営者等を招く授業やインターンシップの卒業要件化などの特徴的教育を発展させ、新規にアントレプレナーシップ教育プログラムを開発してきた。令和7年度よりこのプログラムを開始したことから、今後の展望を含めて全体像を発表する。

【今後の展望】

アントレプレナーシップ教育を通してVUCAの時代を生き抜く力のある人材を育成するとともに、大学発ベンチャー設立を促進する。また、アントレプレナーシップ教育を高大接続や地域の教育に活用し、地域創生を推進する。

【用語解説】

アントレプレナーシップ: 様々な困難や変化に対し、行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神(起業家精神)を意味する。アントレプレナーシップ教育は、自ら社会課題を発見し、解決策を探求できる力を養成するための教育。



<本件に関するお問合せ>

三重大学教育推進・学生支援機構

地域創造教育センター

TEL: 059-231-9982

E-mail: chiiki-kiko01@ab.mie-u.ac.jp

第四期中期目標期間(令和4～9年度)における三重大大学の組織改革

三重モデル地域創生

concept

地域社会と本学がともに発展する未来づくりを目指す

みえの未来図共創機構 (R4～)

みえの未来図のプロデュース機能

目的

これまでの地域連携機能に加え、地域社会のニーズの具現化に取り組むシンクタンク機能を整備し、地域社会から日本の持続可能な未来創り「みえの未来図共創」に取り組むことで、地域創生の自走化を目指す。

役割

- ① 全体の地域共創のための教育研究活動を通じた地域の未来創りの提案
- ② 自走化のため地域活きのニーズの汲み取り、活性化のための提案を行うシンクタンク機能
- ③ 学内外のリソースの収集・データベース構築
- ④ キャンパス外での連携の効果・効率性を高める「アウトリーチ機能」の強化

創業マネジメント人材

リソース収集

教育・研究シーズ

教育・研究ニーズ

地域創生の成功事例

データベース構築

社会からの
具体的ニーズ

生み出した
価値の集約

地域連携
プラットフォーム

地域のステークホルダーとの
共創の場

活動から生
まれた新た
なニーズ

活動から生
まれた新た
なニーズ

地域共創展開センター (R4～)

社会共創による地域イノベーションモデル構築

目的・役割

地域共創を効果的に展開するための、多様な学問分野と企業や地方自治体等の外部組織との連携により、「みえの未来図」を共創し展開する。

「産業の未来図」部門 「地域基幹産業転換」

「持続可能社会モデルの未来図」部門 「医学・医療DX」

医学・医療DX
地域基幹産業転換

データサイエンス分野教員
⇒ ニーズデータ等の分析

社会実装

研究基盤推進機構
基礎研究の支援・推進

基礎研究

連携

大学全体の
研究力強化

各種取り組みの実施・連携拠点

地域拠点サテライト



学部・研究科

全体最適組織への転換

学部・研究科を中心とした活動によるシーズを、いかに社会と結びつけ新たな価値を創造していくことも重要である。このため、中央組織と学部・研究科の機能最適化を図る、教員の「**全学共有枠組**」設け、重点項目への集中的な配置やエフォート管理による双方の発展等教員配置の最適化を全学的に推進する。また、学長裁量経費により若手教員等を積極配置し、センターでの取組を学部・研究科の改組に発展させる視点を持ち推進する。

リカレント教育センター (R4～)

地域産業等課題解決型人材の育成

リカレント教育の推進に
資する経営系人材

目的・役割

- ① リカレント教育の企画・統括・推進のエンジン
- ② オーダーメイド型リカレントプログラムの企画
- ③ 各研究科のニーズに合った大学院における社会人教育を全学的に提供
- ④ 本学が提供する優良なリカレント教育プログラムの統括・推進

地域創造教育センター (R5～)

三重型地域創造人材育成システムの構築

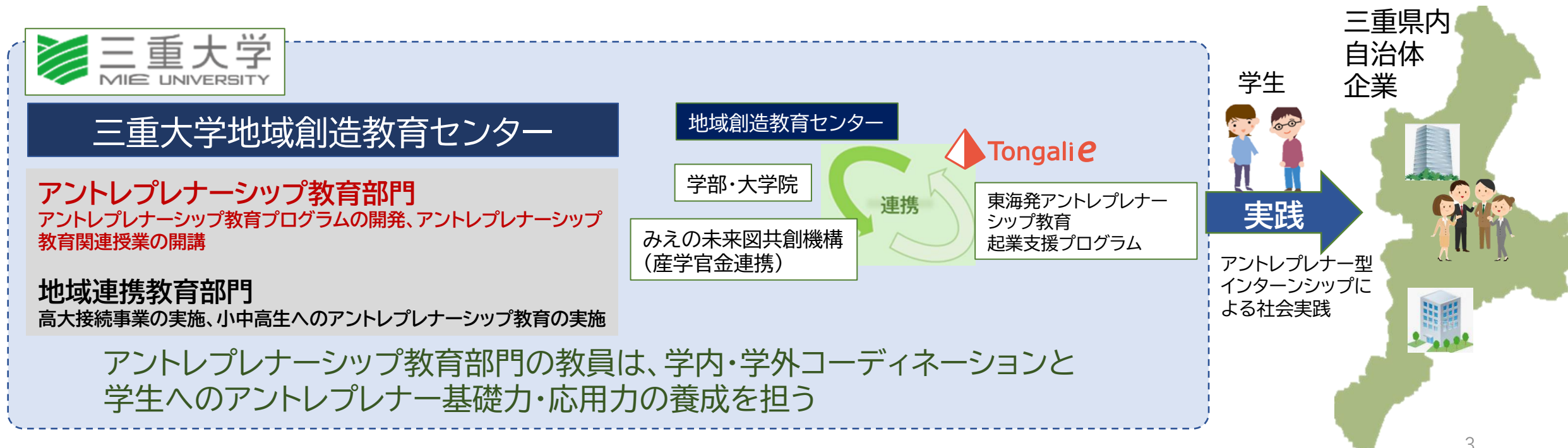
地域創造教育企画教員
高大接続マネジメント教員

目的・役割

本学で目指す地域社会を創造していく人材に必要な力を、三重大大学地域創造力（専門的知見×地域理解×アントレプレナーシップ）と定義し、その力を育成するシステムを、産業界、自治体と恒常的に協働して構築し、入学から卒業、就労まで一貫した教学マネジメントを実施する。

【三重大大学の取組】地域創造教育センター・アントレプレナーシップ教育部門

- アントレプレナーシップとは、様々な困難や変化に対し、行動を起こし、新たな価値を生み出していく精神
- アントレプレナーシップ教育とは、自ら社会課題を見つけ、解決に向かってチャレンジし、解決策を探求できる力を身に付ける教育
- 起業家育成に特化した教育ではなく、企業や自治体、学校などへ就職する学生にとっても有用



令和7年度開始:アントレプレナーシップ教育プログラム



- 全ての学部1年生が必修で受講する「キャリア教育入門」において、「アントレプレナーシップ基礎」の講義を3回にわたり実施
- 共通教育の選択科目において、既存の科目に加えて、地域創造教育センターが企画する新規10科目のアントレプレナーシップ関連科目を順次開設
- 「マインドセット、動機付け」⇒「コンピテンシー、スキルセット」⇒「社会実践」を段階的に学修
- アントレプレナーシップ教育の総まとめとして、プロジェクトベースのインターンシップを地域企業等と共に構築する「アントレプレナー型インターンシップ」として「地域インターンシップ」を令和8年度から開講

【プログラム内容】1年生必修の「アントレプレナーシップ基礎」

第1講

“一人前”になるということ(浜田)

論語に見る「人生の道のり」を概観した上で、学生たちがこれから直面する「一人前になる」という人生の第一の課題について考える。

第2講

「自律型キャリアとアントレプレナーシップ」(浜田)

キャリア教育の根幹となる「自分らしさを発揮して社会の役に立つ」という人生の第二の課題とアントレプレナーシップ教育への入り口として、近年社会で注目される「自律型キャリア」について考える。

第3講

「イノベーションとアントレプレナーシップ」(八神)

なぜアントレプレナーシップとイノベーションが必要とされているのか、を理解する。自己理解を深めるとともに、アントレプレナーシップ関連科目の情報、Tongaliプログラムの情報などを把握する。

【授業担当教員】



浜田 吉司

地域創造教育センター教授(クロスアポイントメント)
大学院地域イノベーション学研究科教授
IXホールディングス(株)代表取締役社長

略歴：1986年慶応義塾大学経済学部卒業。証券会社勤務などを経て、1994年(株)マスヤ社長(現在は会長)2001年持ち株会社(現在のIXホールディングス(株))を設立して社長。以降、事業の継承・買収・起業を重ねて、現在10社から成るマスヤ／IXグループを率いる。2015年三重大学大学院地域イノベーション学研究科を修了し、2024年から教授。



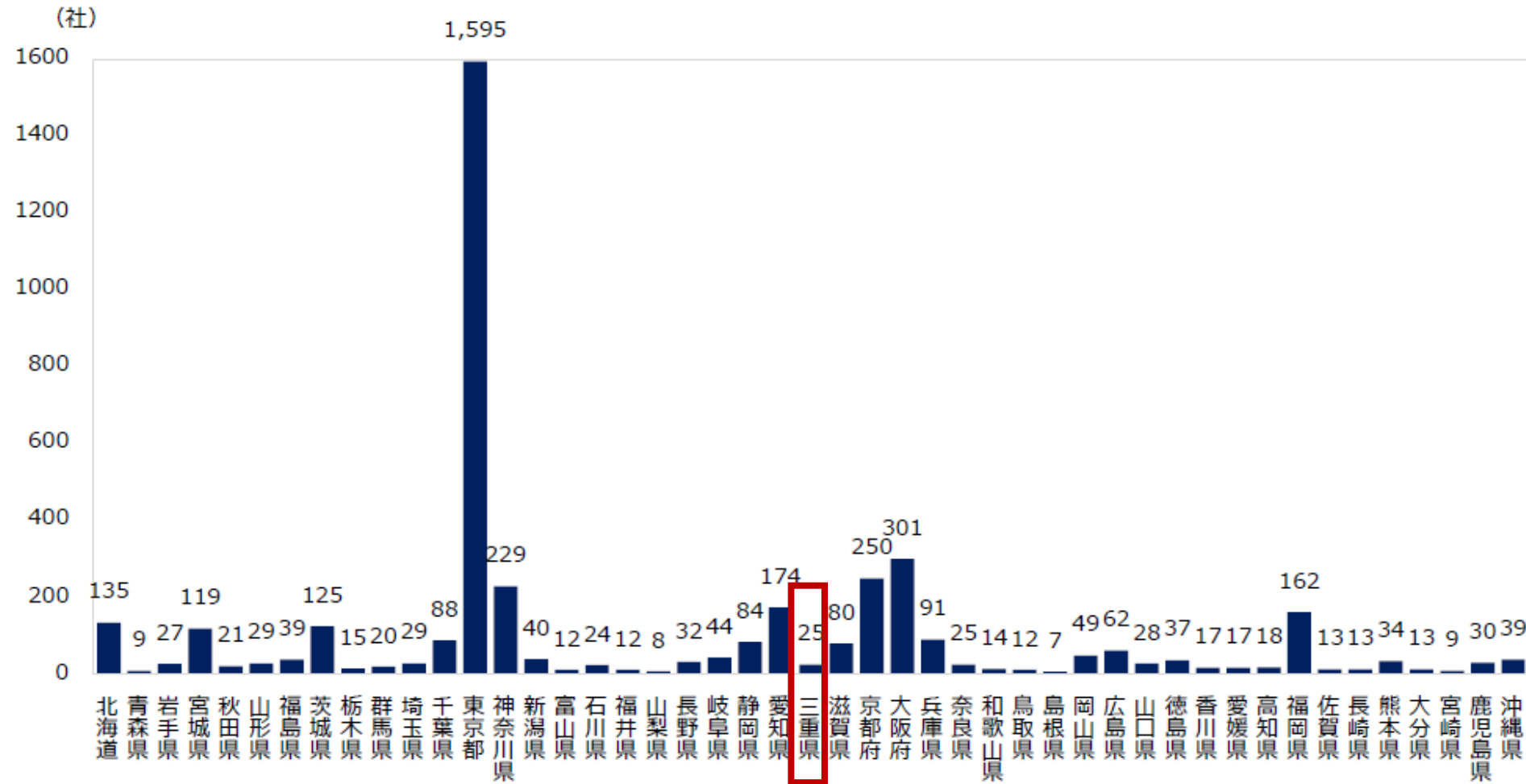
八神 寿徳

地域創造教育センター准教授
研究・社会連携統括本部知財ガバナンス部門副部門長
大学院地域イノベーション学研究科准教授

略歴：2007年新エネルギー・産業技術総合開発機構入構、三重大学にて産学官連携および知財、技術移転活動に従事。2010年から三重大学知的財産部門教員、2015年から地域イノベーション学研究科兼務、2024年から地域創造教育センター教員。三重大学起業部顧問。Tongaliの立ち上げ時(2015年)から三重大学の担当者として参画。

【今後の展望】大学発ベンチャー設立の促進と支援体制の整備

都道府県別大学発ベンチャー数



- 三重県には25の大学発ベンチャー企業がある(2023年)
- 経産省のまとめによると、三重大学は全大学中29位(2022年)、三重県は47都道府県中28位で、愛知県、岐阜県より少ない(2023年)
- アントレプレナーシップ教育を梃子に三重大発ベンチャーやスタートアップの増加を狙う
- 大学のベンチャー・スタートアップ支援体制の整備を進める

「令和 5年度 大学発ベンチャー 実態等調査 調査結果概要」令和 6年3月 経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進室 より抜粋

【今後の展望】高大接続への展開と若者の地域定着促進による地域創生

地域創造教育センター

アントレプレナーシップ教育プログラム

マインドセット・動機付け科目

コンピテンシー・スキルセット科目

社会実践科目

共通教育科目

リカレント教育センター

リカレント教育センターを活用した大人のためのアントレプレナーシップ教育を提供



県内高校

- ・ 高校生の大学授業事前履修
- ・ アントレプレナーシップ教育プログラムの活用

- ・ 高校の授業を共同で構築
- ・ 大学教員による出前授業

- ・ 小中高生や社会人へのアントレプレナーシップ教育プログラムの展開

地域拠点サテライト

教育の場として県内5カ所(北勢・伊賀・松坂多気・伊勢志摩・東紀州)の各地域拠点サテライトを活用



- 三重県の課題である若者の県内定着促進のため、若者自身の手で地域課題を発見・解決する力を育むアントレプレナーシップ教育をフル活用
- 高大接続事業の一環として、県内高校にアントレプレナーシップ教育を提供し、大学授業の事前履修を推進
- 地域拠点サテライトを教育の場として活用し、県内の小中高生にアントレプレナーシップ教育を提供
- リカレント教育センターを活用し、地域の大人が自らの力で地域に価値を創造できるようにするための「大人のアントレプレナーシップ教育」を提供